

放射性物質分析・研究施設第1棟のRI使用許可 申請スケジュールについて

2021年3月24日

東京電力ホールディングス株式会社
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

第1棟RI申請スケジュールの見直しについて

- これまで、2021年3月申請を目標に、第1棟で使用する非密封放射線同位元素(RI)の使用許可申請の準備を進めてきた。
- しかし、添付資料に示すとおり、同施設における単体作動試験で確認された給排気設備の風量不足に係る対応のため、運用開始の予定は6月から遅れる見通しとなった。



上記を受けて、今後、以下のように対応する。

- ① これまで3月を目標としてきた申請時期を、上記対策及びスケジュールを踏まえて見直す。
- ② 東電側は現RI使用施設の現況調査を実施するなど、後々変更が生じないように改造内容を検討中。
- ③ 実施計画の変更は①の最新スケジュールを踏まえ、申請時期を決定する。

(以下添付資料)

出典：廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議（第87回）資料4その他
「放射性物質分析・研究施設第1棟における給排気設備の風量不足と運用開始時期見直しについて」（令和3年2月25日）

施設概要

- 放射性物質分析・研究施設は、東京電力ホールディングス株式会社(以下「東電」)福島第一原子力発電所(以下「1F」)の事故によって発生した放射性廃棄物や燃料デブリ等の分析を行う施設で、施設管理棟、第1棟、第2棟から構成される。
- このうち第1棟は、低・中線量のガレキ類等の廃棄物試料の分析を行う施設である。

整備状況

- 2017年に着工し建設を進めており、現在は建設工事の終盤を迎えている。2020年12月に単体作動試験を開始、2021年2月より総合機能試験を開始した。



全景写真



鉄セルの整備状況

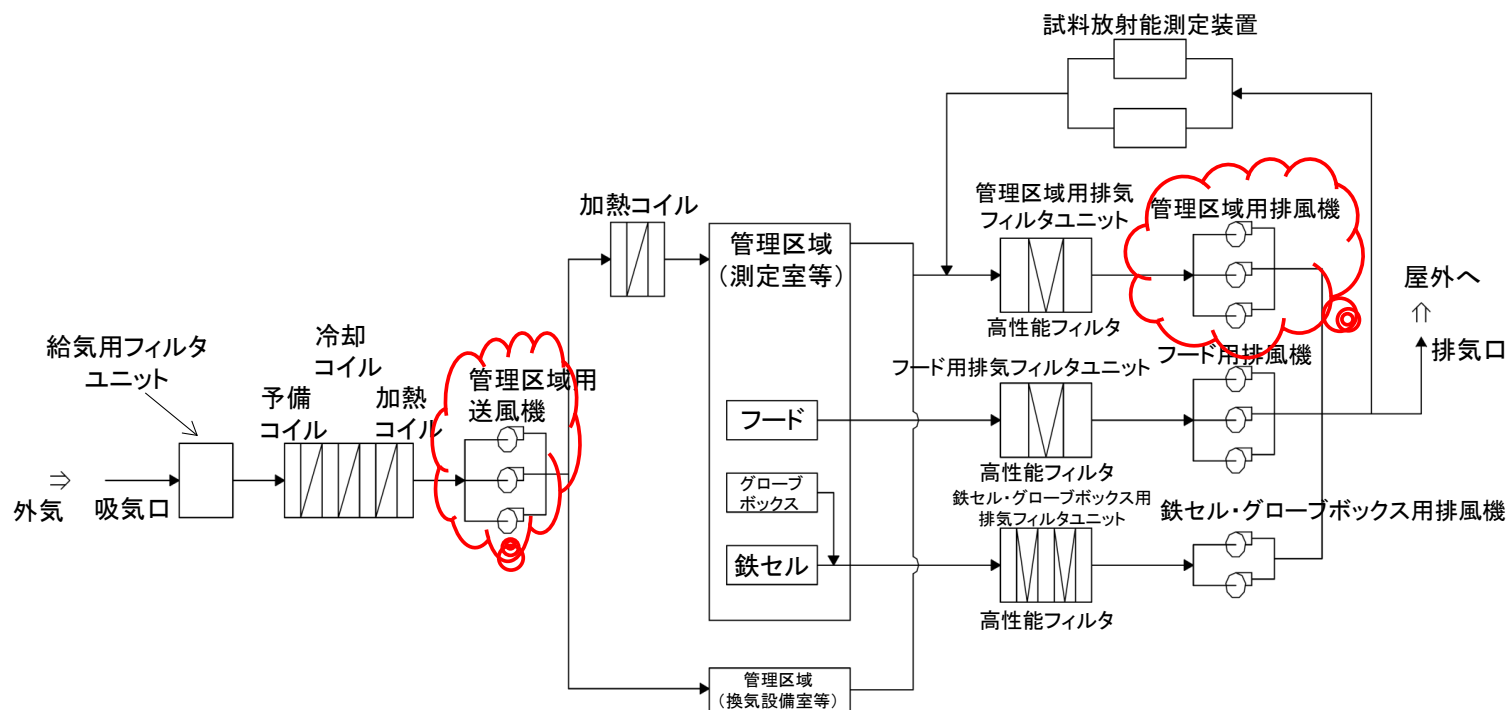


グローブボックスの整備状況

給排気設備の風量不足について

- 個別の設備毎に作動確認を行う単体作動試験において、給排気設備で風量不足が確認された。
- このため、総合機能試験を進めつつ並行して風量確保対策工事を実施してきたが、改善が見られなかった。
- 現在、総合機能試験を中断し、原因調査と対策検討を実施中。

風量不足の内容：管理区域用送風機及び管理区域用排風機について、単体作動試験の一環としての2台運転試験時※に、所定の風量に達せず。なお1台ずつの性能は所定の性能達成を確認。



※) 送風機、排風機はそれぞれ3台設置、通常運転時は2台運転（1台予備）。

運用開始時期見直しについて

- 計画では、2021年6月までに総合機能試験及び規制庁による使用前検査を終えて竣工後、運用開始の予定だった。
- 現在、給排気設備の風量不足についての原因調査と対策検討を実施中。これに伴って、6月運用開始の予定も遅れる見通しとなった。
- 今後、原因調査と対策検討の結果を踏まえ、スケジュールの見直しを行う。

